

# 性犯罪者研究に携わって

東 本 愛 香

東京医科歯科大学難治疾患研究所 犯罪精神医学研究室助手



私は、現在、東京医科歯科大学難治疾患研究所犯罪精神医学研究室で助手として勤務しております。この研究室は、精神鑑定例や各種データを通じて、犯罪と犯罪者の精神医学的な研究を行っています。ここで私は性犯罪者の再犯予防に関する研究に携わっています。平成16年に奈良で起きた小学生女児誘拐殺人事件以来、累犯性の高い性犯罪者に対して再犯予防の方策が立てられていないことに社会から批判が集まり、法務省も昨年から対策に乗り出しました。私たちも社会内での再犯防止プログラムという位置づけで性犯罪歴のある対象者へのトリートメントプログラムを開始しました。このプログラム開始にあたり、私は実際にイギリス・カナダに赴き、実状を学ばせていただきました。今後、わが国固有の制度や条件に応じたトリートメントプログラムやアセスメントの可能性を、実践の現場を通して検討していきたいと考えています。また、このような経緯から、保護観察所に招かれアドバイスを رفتたり、研修会での講演を رفتたりと、多領域と連携した活動を展開しています。国内のみならず、海外の学会においても発表し、また現在は、研究室主催の国際シンポジウム開催にむけて準備をすすめています。諸外国に20年近く遅れているとされる日本の性犯罪者研究は、昨今の事件からかも、その対策を含めて非常に必要性の高いものだと思います。

私は、修士課程修了後博士課程に進みました。その5年間を通し、「取り組まれていないからこそ取り組もう」、「研究されていないからこそ、取り扱えるところに目を向けよう」というスタンスを培ったように思います。テーマが異なっても、この思いは変わることなく、取り組むことの楽しさとして私の中で強い力となっています。それを教えてくださった先生方や仲間に感謝し、誇りをもって仕事をしていけたらと思います。

(2002年度博士〔学術〕学位授与)